

# 施策評価シート(令和元年度)

(基本施策の大綱) 3. 交通拠点性を生かした都市活力の向上

(基本施策) (1) 企業活動の促進・働く場の充実

(評価担当者)

産業建設部長 大澤 哲也

## 基本施策が目指す姿

多様な企業が、市内に立地し、事業活動を活発に行うことで、雇用が創出されています。

## 関連する分野別計画

## 成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	企業立地・事業拡張件数	件	-	H27	0	1	1			10
2	製造品出荷額等の額	億円	10,495	H26	11,766	9,613	10,339			11,200
3	製造業の従業者数	人	9,701	H26	10,088	10,235	10,119			10,200
4										
5										

## 市民アンケート調査

項目		現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	企業活動が活発に行われている	重要度 1.24	1.29		企業活動の活性化、働く場の充実のいずれも重要度は特に高い。満足度は、低いものの前回より上昇しており、これまでの取り組みの成果が表れていると考えられる。 引き続き積極的に施策を展開し、満足度の向上に取り組んでいくが、亀山・関テクノヒルズに進出決定した企業の操業開始が待ち望まれる。
		満足度 0.37	0.15		
2	働く場が充実している	重要度 1.46	1.39		
		満足度 0.64	0.44		
3		重要度			
		満足度			
4		重要度			
		満足度			
5		重要度			
		満足度			

## 総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
<b>B</b> まずまず進んでいる	亀山・関テクノヒルズの新区画に進出決定した5社の内、2社が令和2年度中の操業に向けて着工するなど、持続可能な産業構造の構築は、順調に推進できており、個別判定をAとしている。また、商工会議所と連携した経営指導などの既存企業の活性化、求人懇談会や働く環境づくり懇談会などの雇用の創出と働きやすい環境づくり、市内企業35社及び関係機関で設立した鈴鹿川等源流の森林づくり協議会活動など企業との連携によるまちづくりは、まずまず進んでおり、個別判定をBとしている。基本施策に設定した成果指標の製造品出荷額等の額及び製造業の従業者数は、目標値に概ね近いところにあり、基本施策が目指す姿にまずまず進んでいると考えられることから、総合判定をBとした。

## 反省点・課題

亀山・関テクノヒルズの新区画へ進出決定した企業に対し、円滑な操業開始に向けてサポートを継続するとともに、高速道路が結節する利便な交通アクセス、リニア駅の誘致など、本市のポテンシャルを生かして、既存企業の事業拡充はもとより、新たな企業誘致を積極的に進める必要がある。一方、新型コロナウイルス感染症の影響により、雇用の維持に取り組まれている状況であるため、新規雇用への影響が懸念される。  
働きやすい職場環境づくりに向けた研修や情報発信を行うとともに、持続可能な開発目標(SDGs)によるビジネスを用いた社会貢献を取り入れる企業が増えつつあることから、その取組を応援していく必要がある。

## 今後の展開方針

県や産業団地の開発主体等と連携し、立地検討企業の把握やスピード感を持った対応に努めるとともに、産業振興奨励制度や本市の立地特性を効果的に情報発信し、幅広い業種の企業を誘致していく。  
雇用に関しては、雇用・経済情勢を見極めながら、亀山市雇用対策協議会、ハローワークや商工会議所などの関係機関等と連携して一体的な支援を行うとともに、企業や労働団体など関係機関と情報交換を行い、雇用の確保につなげる。  
引き続きCSRの取組を応援するとともに、持続可能な開発目標(SDGs)によるビジネスを用いた社会貢献に取り組む企業についても、積極的に応援していく。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		持続可能な産業構造の構築					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A	活動	平成28年度に指定要件を満たす工場の新設及び増設を行った事業者2社に対し、3年目となる奨励金を交付した。また、立地検討企業や関係機関に対し、産業振興奨励制度も説明しながら、積極的な企業誘致活動を展開した。さらに、県や産業団地開発主体をはじめ、既存企業や金融機関等とも連携を密にし、立地を検討する企業情報の把握に努めた。		令和元年度においては、設備投資、操業開始には至らなかったが、平成30年3月に完成した亀山・関テクノヒルズの新10区画へは、既に5社(計8区画)の進出が決定し、そのうち2社が令和2年度の操業に向けて着工しているなど、様々な業種の企業集積により、持続可能な産業構造の構築は、順調に推進できている。			
		順調に進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17061	産業振興奨励事業		主	49,360 / 45,550	B	B
	19010	亀山・関テクノヒルズ工業用水道整備事業		主	73,000 / 70,751	A	A
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		既存企業の活性化					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	亀山市雇用対策協議会事業により、ハローワークと連携して定期的な情報交換の場を持ち、企業間交流を促進した。 また、亀山商工会議所と連携を図り、専門家派遣事業など、6社に対して計12回の経営指導を実施した。販路開拓や商品開発等による経営力向上を目指す市内の中小企業者等を支援した。		亀山市雇用対策協議会の事業を通じ、新採研修や実務者研修などを開催し、積極的に既存企業間交流の場を設け、企業ニーズの把握に努めた。 また、亀山商工会議所と連携した専門家の派遣による経営指導により、企業の経営基盤を強化することで、既存企業の活性化に繋がる施策は、まずは展開できている。			
		まずは進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	5003	団体支援事業(労働者対策事業)		標	2,005 / 1,956	B	B
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		雇用の創出と働きやすい環境づくり					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	雇用の創出に向けて、亀山市雇用対策協議会事業として高校進路指導主事との求人懇談会を開催した。 また、労働力確保が非常に困難な雇用情勢の中、労働関係機関が集まって意見交換できる場として働く環境づくり懇談会を開催し、「女性活躍推進とワーク・ライフバランス」の研修も行った。		亀山市雇用対策協議会主催の求人懇談会では、会員事業所23社と県内高校19校の出席があり、翌年春の採用に向けて有意義な話し合いが行われた。 また、働く環境づくり懇談会により、働きやすい職場環境づくりに向けて共通の理解を深めたことから、まずは施策を推進できている。			
		まずは進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	5002	融資対策事業		標	21,000 / 21,000	B	B
	5003	団体支援事業(労働者対策事業)		標	2,005 / 1,956	B	B
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向		企業との連携によるまちづくり					
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	多様な自然の保全とそこに根づく歴史文化を育むことを目的に、平成30年度に設立した鈴鹿川等源流の森林づくり協議会において、体験イベントやPRを行った。また、持続可能な開発目標(SDGs)によるビジネスを用いた社会貢献を取り入れる企業が増えつつあることから、取組事例の研究を行った。		市内企業35社と関係機関で設立した鈴鹿川等源流の森林づくり協議会において、棚田稲刈り体験やリースづくり、鈴鹿峠周辺の保全活動等の様々な活動を通じて、地域資源の再認識や保全を図るなど、CSR活動の支援を進めており、企業との連携によるまちづくりは、まずは推進できている。			
		まずは進んでいる		評価			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果